

【ねがいはましては】

令和4年5月25日

KYOWA SCHOOL

第376号

「バレるな限界」

60年ほど前、日本は好景気に沸いていました。朝鮮戦争で景気に火がつき、やがてベトナム戦争がはじまりさらに景気に拍車がかかりました。戦争によって日本は著しい経済発展をしました。皮肉です。やがてバブル景気・・・。

戦後2度のベビーブームにも助けられ、日本国内の労働力にも不安を感じることなく成長を続けた日本・・・。

60年ほど前、女性（母親）が働きに出ることは珍しいことに数えられていたと思います。学校から帰ると「ただいまー」「おかえりー」と、各家々では当たり前のように声が飛び交っていました。私の家も同様でした。そして宿題もそこそこに外遊びへ・・・。「〇〇ちゃん、あそびましょ」と、家の前で大声を出します。そして街の所々で子どもたちの元気に遊び回る声が飛び交っていました。今日は缶けり、あしたはゴムなわ、その次の日はかくれんぼ、年の差を乗り越えて皆が友だちでした。その中にちゃんと上下関係のマナーが出来上がっており、けっして年下はきたないことばを年上には使いませんでしたし、年上は年下にやさしくしてあげることも・・・。テレビは「正義の味方」が主流でしたから、自然とものごとの善し悪しも身につけていったように思います。

その時代は頭が良ければ「ホワイトカラー」（事務職）、頭が悪ければ「ブルーカラー」（力仕事）のような風潮があり、けっして学校の成績が良くなくても体力勝負で健康第一も人生OKの時代であったように思います。

徐々に変わってきたのが、昭和45年過ぎたあたりからでしょうか。日本が破竹の勢いで海外進出をし始めた頃からだと思います。ホワイトカラー、つまり大手企業で働くサラリーマンがもっとも稼ぎが良いのたの風潮が高まった頃からです。学歴がもてはやされるようになります。各家庭ごとの経済力に余裕ができはじめると、そろって親は子に投資を始めました。そうです、進学熱です。そのころから子どもの習い事が急激に増え始めます。

昨今の中国を見ているようです。

あわせて徐々に労働力不足も起こり始めます。製造は海外に移されるようになり、誰もがデスクワーク中心の労働環境になっていきます。つまり女性でも充分にデスクワークはこなせるわけです。各企業はこぞって労働力確保のために女性の社会参画を必要としていきます。もう、あの頃の「ただいまー」「おかえりー」は少しずつ減っていきます。そして生まれた語彙が「カギっ子」です。ある程度成長した子どもなら安心ですが、まだ入学間もない子になると母は安心して会社へも行っていられません。そこで誕生したのが「学童保育クラブ」です。学校の放課後、母が会社から帰ってくるまでそのまま安心できる場所で預かってもらいたい。労働者の切なる願いが叶えられました。あわせて夫婦二人にサラリーが入ってくることで、年間総所得も今まで以上になっていきます。過去にはなかった贅沢を叶えられるようになっていきます。マンション購入や戸建て購入。車の購入などです。ある程度信用度の高い企業にいればローンも簡単に組めます。

さて、子どもたちの環境はどうなったのか。0才児から5才児までは保育園、1学年から基本3学年までは学童保育クラブ、では4学年以上はどうか。それで広く行き渡ったのが「部活」になります。それまでは部活動といえば、そのスポーツや文化分野に興味があり専念したいものだけが入るのが通例であったと思います。私の小学校時代は、部活という語彙はなかったのではないかと記憶しています。学校が終われば全員帰宅が当然。中学校でも一握りの者がかざられたスポーツ部に属する位であったと記憶しています。

社会はご両親が安心して働けるように、学校の放課後に負担を押しつけていきました。部活の顧問は教員が担うことが多いはずですが。やがて放課後は教員たちのサービス残業のかたちで浸透していきます。いまやりっぱなブラック企業と成長しています。教員のなり手も減ってきているのが現状です。

学校の先生方は公務員です。公の立場で社会に貢献する使命を負っています。ですから残業など当たり前の風潮が強く根付いています。私の大学生時代、高速料金所のアルバイトで霞ヶ関によく回されていましたが、年度末近くになると、夜中2～3時まで官庁街の建物には煌々と灯りが点っていました。今でも官公庁では夜中の帰宅になるとタクシー代が支給されるそうです。そのくらい公務に携わる方々は辛抱強く粘り強くお勤めされています。

そして部活は姿を変えていきます。「やる以上は勝たねばならない」をスローガンに、練習に拍車がかかっていきます。土・日・祝も練習・・・。となりの学校があそこまで練習しているのだから、我が校はもっとそれ以上練習せねば・・・。

現在はその行き過ぎに少しブレーキがかかってきてはいますが、相変わらず常勝校は練習量に変化はなさそうです。とくに高校？（野球部がそうかも、甲子園がありますからね）

日本経済も「ゼロ金利政策」をやめることもできず、賃金格差解消にもほど遠く、それに伴い先生方の負担減もままならず・・・。

「ただいまー」「おかえりー」の飛び交う街、子どもたちの遊ぶ声が飛び交う街。秋になると、夕方、あちらこちらから立ち上るサンマを焼くけむり・・・。

今のように物に豊かさはなかったのかもしれませんが、「無理をする」があたりまえではなかった気がします。